

議会改革特別委員会

報告者 氏名 賀屋幸治

【議員定数問題に関する大竹市議会議員（16名）の意見（アンケート）要請】

先の大竹市議会議員選挙による無投票の結果、「議員定数問題」が最重要課題であることが確認され、昨年末には全議員（16名）の皆さんにアンケートに参加を頂き有難う御座いました。

そうした中、9月の最終結論に向けて、先のアンケート実施から半年の時間が流れており、もう一度全議員（16名）のアンケート実施を下記の項目に沿って行ってはとの提案が出され、委員会で承認されました。

そのような状況の中、この度のアンケート実施においては、時間の関係から設問内容は、議会報告会と同様な、皆さんの意思表示が、即、分かる方法で行い、そして、今回は記名で行われることが決定されましたので宜しくお願いします。

特に員外議員の皆さんには、お手数ですが宜しくお願いします。

（自分の選択する番号に○印をつける （ ） 内には議員定数の記入）

1、増やすべき（ ）

上記を選択した理由をお書き下さい。

2、現状維持（16名）

上記を選択した理由をお書き下さい。

③、減らすべき（15名）

上記を選択した理由をお書き下さい。

前回選挙が無投票当選となった事で議員定数のあり方について議論が進められてきましたが結論は得られていません。定数削減によって無投票が回避される担保はありませんが大竹市議会では平成19年8月（人口30,084人）改選時に定数を18名から16名に削減して以来定数を据え置いています。次期改選時令和5年8月には人口推計も26,000人を下回る事が懸念されています。

人口推移と議員定数は必ずしも比例連動するものではありませんが、4期16年間で人口が約4,000人減少した現実は無視できません。全国的にも人口減少が進む中で他市町でも定数問題は各地で議論されていますが、その多くが定数削減の結論に至っています。

各委員会での議論を深めるには7～8名が適切と言われていますが、大竹市議会では現行の16名になって以降3回の補欠選挙が行われ当選人が決定するまでは1名減の15名で運営されてきましたが特段の支障はありませんでした。よって次期改選は1名減の定数15名が適正と考えます。

自由記述欄

※提出期限 令和4年7月20日（水）までにメール回答

議会改革特別委員会

報告者 氏名 末広 天佑

【議員定数問題に関する大竹市議会議員（16名）の意見（アンケート）要請】

先の大竹市議会議員選挙による無投票の結果、「議員定数問題」が最重要課題であることが確認され、昨年末には全議員（16名）の皆さんにアンケートに参加を頂き有難う御座いました。

そうした中、9月の最終結論に向けて、先のアンケート実施から半年の時間が流れており、もう一度全議員（16名）のアンケート実施を下記の項目に沿って行ってはどの提案が出され、委員会で承認されました。

そのような状況の中、この度のアンケート実施においては、時間の関係から設問内容は、議会報告会と同様な、皆さんの意思表示が、即、分かる方法で行い、そして、今回は記名で行われることが決定されましたので宜しくお願いします。

特に員外議員の皆さんには、お手数ですが宜しくお願いします。

（自分の選択する番号に○印をつける （ ） 内には議員定数の記入）

1、増やすべき（ ）

上記を選択した理由をお書き下さい。

2、現状維持（16名）

上記を選択した理由をお書き下さい。

議事録での判断しかできませんが2022年9月現在で結論を出すことを前提とするのであれば、判断は早いと考えます

3、減らすべき（ ）

上記を選択した理由をお書き下さい。

自由記述欄

新人のため議事録からの判断しかできませんが、削減するとしても理由がまとめきれておらず、市民に説明ができません。議会での共通認識は前回の選挙が無投票ということだけです。無投票という理由だけで削減するとなると無投票のたびに人数を減らすことになってしまいます。無投票は議員のなり手不足が問題であり、定数を減らす理由では本来ないはずで、全国的な平均議員数が減少しているにもかかわらず、無投票当選者の割合が高くなっているという調査もあり、定数減が根本的な解決になるとは思えません。

またこのアンケートを含め、今の議論は定数を増やすか減らすかの議論であって、定数の在り方の議論ではないように思います。本来は委員会の名前でもある、議会を「改革」するための議論であるべきです。定数の増減が議会改革ではありません。大竹市議会がこの厳しい環境下で、よりよい運営をしていくためにどう在るべきかを話し合い、その在り方の1要素として定数がどのようにあれば適切かを議論する必要があります。

将来的に市民の人口が減っていき、税収も減っていく中で、議員定数の話は必ずついてまわります。その中でも議論がしやすいように大竹市議会だけの議員定数の在り方についてある程度の基準を設けた方が議論もしやすいと思います。出来れば定量的な判断基準があると市民にも説明しやすく、議論しやすいです。

増やしたり減らしたりする根拠がない以上、定数は現状維持のまま、将来的な増減を含め、議員定数の在り方をどうするべきか、それに加えて成り手不足解消について議論するべきだと考えます。

※提出期限 令和4年7月20日（水）までにメール回答

議会改革特別委員会

報告者 氏名 藤川 和弘

【議員定数問題に関する大竹市議会議員（16名）の意見（アンケート）要請】

先の大竹市議会議員選挙による無投票の結果、「議員定数問題」が最重要課題であることが確認され、昨年末には全議員（16名）の皆さんにアンケートに参加を頂き有難う御座いました。

そうした中、9月の最終結論に向けて、先のアンケート実施から半年の時間が流れており、もう一度全議員（16名）のアンケート実施を下記の項目に沿って行ってはとの提案が出され、委員会で承認されました。

そのような状況の中、この度のアンケート実施においては、時間の関係から設問内容は、議会報告会と同様な、皆さんの意思表示が、即、分かる方法で行い、そして、今回は記名で行われることが決定されましたので宜しくお願いします。

特に員外議員の皆さんには、お手数ですが宜しくお願いします。

（自分の選択する番号に○印をつける （ ） 内には議員定数の記入）

1、増やすべき（ ）

上記を選択した理由をお書き下さい。

② 現状維持（16名）

3年前、初めての議会改革特別委員会で、2019年大竹市議会議員選挙が無投票の結果を受け、無投票を回避するために、「議員定数削減」と、発言させていただきました。その後、議会改革特別委員会での議論や、私自身、大竹市民の方々に議員定数について聞き取りアンケートをした結果、多数の方が議員定数削減には反対しておられ、私も3年間、議会・議員活動をする中で、短い経験ですが、16名の現状維持でよいと考えるようになりました。

また、2022年4月23日3カ所の会場で、「議員のなり手不足と議員定数について」を、共通の意見交換テーマにして、議会報告会を開催させて頂きましたが、参加して下さいました方々の意見としては、身近な地域のことのご意見が多くいただきました。議員定数についてのアンケート結果においても、①増やすべき 11.4% ②現状維持 45.7% ③減らすべき 25.7% ④どちらとも言えない 17.1% 未記入 2.9% の結果となっており、参加の方は少数ではございましたが、②の現状維持が一番多い結果であったことを、重く受け止めております。

今回は、現状維持と選択しますが、近い将来議員定数削減しなければならない時が来ます。今後も議員定数について協議していかなければならないと考えております。

3、減らすべき（ ）

上記を選択した理由をお書き下さい。

自由記述欄

※提出期限 令和4年7月20日（水）までにメール回答

議会改革特別委員会

報告者 氏名 原田孝徳

【議員定数問題に関する大竹市議会議員（16名）の意見（アンケート）要請】

先の大竹市議会議員選挙による無投票の結果、「議員定数問題」が最重要課題であることが確認され、昨年末には全議員（16名）の皆さんにアンケートに参加を頂き有難う御座いました。

そうした中、9月の最終結論に向けて、先のアンケート実施から半年の時間が流れており、もう一度全議員（16名）のアンケート実施を下記の項目に沿って行ってはとの提案が出され、委員会で承認されました。

そのような状況の中、この度のアンケート実施においては、時間の関係から設問内容は、議会報告会と同様な、皆さんの意思表示が、即、分かる方法で行い、そして、今回は記名で行われることが決定されましたので宜しくお願いします。

特に員外議員の皆さんには、お手数ですが宜しくお願いします。

（自分の選択する番号に○印をつける （ ）内には議員定数の記入）

1、増やすべき（ ）

上記を選択した理由をお書き下さい。

2、現状維持（16名）

上記を選択した理由をお書き下さい。

③、減らすべき（15名）

①行財政改革の視点…周辺の市町と比較して、同等もしくはそれ以上の行政サービスができているとは言い難く、財政力はあっても実質公債費比率は以前高い水準であるし、相次ぐ大型事業の影響で今後当面その数値が下がる見込みはない。

②将来予測及び展望…人口減少、人手不足は今後深刻になることは間違いない。2035年の本市の人口予測は21,774人。一定水準の人材を求めるなら、人口減少とともに定数を減らしていくのは必至であろう。

上記①②を踏まえた上で、私なりに今後の定数の推移（基準）を、人口が2万2千人で14名、1万8千人で13名としていること、無投票という結果に関わらず、人口が2万6千人を切ることは時間の問題であること、無投票と定数の因果関係は概ねなく、なり手不足を解消する即効性のある方法も見当たらない、ということから、定数は1名減とすることが、混乱なく無投票を回避する最も有効な手段であると考えている。

※提出期限 令和4年7月20日（水）までにメール回答

議会改革特別委員会

報告者 氏名 小中 真樹雄

【議員定数問題に関する大竹市議会議員（16名）の意見（アンケート）要請】

先の大竹市議会議員選挙による無投票の結果、「議員定数問題」が最重要課題であることが確認され、昨年末には全議員（16名）の皆さんにアンケートに参加を頂き有難う御座いました。

そうした中、9月の最終結論に向けて、先のアンケート実施から半年の時間が流れており、もう一度全議員（16名）のアンケート実施を下記の項目に沿って行ってはどの提案が出され、委員会で承認されました。

そのような状況の中、この度のアンケート実施においては、時間の関係から設問内容は、議会報告会と同様な、皆さんの意思表示が、即、分かる方法で行い、そして、今回は記名で行われることが決定されましたので宜しくお願いします。

特に員外議員の皆さんには、お手数ですが宜しくお願いします。

（自分の選択する番号に○印をつける （ ）内には議員定数の記入）

1、増やすべき（ ）

上記を選択した理由をお書き下さい。

2、現状維持（16名）

上記を選択した理由をお書き下さい。

③、減らすべき（14名）

前回選挙で、ポスターを掲示板にはっていた際、市民から選挙になるんかねえと聞かれ「私が最後の16番目だから無投票になるかもしれません」と答えると、「やはり選挙にならんといけんねえ」とおっしゃったので、もし当選したら「定数削減に取り組みます」と約束したのが動機です。無投票を回避したうえで、良質な人材を確保するには、競争率を高くする必要があり定数削減は必須と考えます。昨年実施の江田島市議選のように、定数2削減したら5人が落選。定数削減することで新陳代謝や活性化が図られたと思います。「まず狭き門より入れ」ということです。この3年間を顧みて定数を2減らしたところで議会運営に支障をきたすことは全くないと感じています。定数削減をしたところで市民に迷惑がかかると思えません。

※提出期限 令和4年7月20日（水）までにメール回答

議会改革特別委員会

報告者 氏名 中川 智之

【議員定数問題に関する大竹市議会議員（16名）の意見（アンケート）要請】

先の大竹市議会議員選挙による無投票の結果、「議員定数問題」が最重要課題であることが確認され、昨年末には全議員（16名）の皆さんにアンケートに参加を頂き有難う御座いました。

そうした中、9月の最終結論に向けて、先のアンケート実施から半年の時間が流れており、もう一度全議員（16名）のアンケート実施を下記の項目に沿って行ってはとの提案が出され、委員会で承認されました。

そのような状況の中、この度のアンケート実施においては、時間の関係から設問内容は、議会報告会と同様な、皆さんの意思表示が、即、分かる方法で行い、そして、今回は記名で行われることが決定されましたので宜しくお願いします。

特に員外議員の皆さんには、お手数ですが宜しくお願いします。

（自分の選択する番号に○印をつける （ ） 内には議員定数の記入）

1、増やすべき（ ）

上記を選択した理由をお書き下さい。

②、現状維持（16名）

上記を選択した理由をお書き下さい。

定数削減は慎重に行うべきで「減らせばよくなるのでは」とか、定数削減をおこなって改革したととらえるのは違うと思う。どうしても削減するべき理由がなければ安易に削減するべきではない。

3、減らすべき（ ）

上記を選択した理由をお書き下さい。

自由記述欄

過去に何度も削減を行ってきて、それが原因とはいええないかもしれないが、投票率がどんどん下がっている。「誰が議員になっても同じ」「身近に議員がいない」「投票したい人がいない」こういった声は議員を減らすことで改善されるだろうか。議員が少なければ意見がまとまりやすい反面、片寄ってしまう恐れがある。女性や若い人、多様性といった面でもできるだけ削減はしない方がよいと思う。

※提出期限 令和4年7月20日（水）までにメール回答

議会改革特別委員会

報告者 氏名 小田上 尚典

【議員定数問題に関する大竹市議会議員（16名）の意見（アンケート）要請】

先の大竹市議会議員選挙による無投票の結果、「議員定数問題」が最重要課題であることが確認され、昨年末には全議員（16名）の皆さんにアンケートに参加を頂き有難う御座いました。

そうした中、9月の最終結論に向けて、先のアンケート実施から半年の時間が流れており、もう一度全議員（16名）のアンケート実施を下記の項目に沿って行ってはとの提案が出され、委員会で承認されました。

そのような状況の中、この度のアンケート実施においては、時間の関係から設問内容は、議会報告会と同様な、皆さんの意思表示が、即、分かる方法で行い、そして、今回は記名で行われることが決定されましたので宜しくお願いします。

特に員外議員の皆さんには、お手数ですが宜しくお願いします。

（自分の選択する番号に○印をつける （ ） 内には議員定数の記入）

1、増やすべき（ ）

2、現状維持（16名）

議会基本条例にある自主自立の地方分権時代にふさわしい市民に身近な議会を想定できていない。

活動状況の把握、将来をどのように見据え、少数精鋭の議会とするのか、小さな声を拾い上げるために多くの代表者を選ぶのか。どちらを選ぶのかによって魅力の作り方は大きく異なるし、変わってくる。

その方向性を見いだすことが議会改革特別委員会の大きな使命であったと思うが、現段階では決まっていない。今後も方向を決めるため議論は必要だと思うが、今の時点では定数維持すべき。

3、減らすべき（ ）

自由記述欄

なり手不足の解消を主題として改選後の2年間は魅力作りや発信を行うことで、信頼され、魅力のある議会になるのではないかという取り組みであったと記憶している。その後、約1年かけて定数の問題へと議題は変わってきたが、現状の把握と未来への取り組みについて深く考察することができなかったのは委員として大いに反省している。

しかし、対症療法で場当たりに民主主義、地方自治の根幹となる地方議会の定数を変えてはならないという思いは一貫して述べてきた。

なり手不足を解消していくには「議会・議員の魅力の衰退」、「議会・議員の活動条件の把握」「地域力の低下」「法制度」と大きく4点にわたって議員に「ならない理由」「なれない理由」の議論を進めていくことが必要であったのではないだろうか。当該委員会の委員でありながらこの論点をわかりやすく提案できなかったことは自分自身の力不足であったと思う。

削減が妥当であるという結論をこの議論の中で見いだすことが出来ればそれに抗うつもりもなく、当初からゼロベースで話をしていき、最終的にどの立場をとるか決めたいという趣旨の発言を繰り返

ししてきた。

まずは『議会・議員の魅力の衰退』これは「日頃何をしているのかわからない」や「議会でどんな事があるのかわからない」など、議会や議員の活動の不透明さ、情報発信の非活発などによるものであると考えられ、先に触れた改選後の2年間で取り組みを行なった。

しかし、現状はWEB上の発信で議会から行なわれているのは本会議中継、委員会中継、議会便りのホームページ更新にとどまり、スピード感のある情報発信には至っていない点を改善していかなければならない。

2点目は『議会・議員の活動条件の把握』、報酬や政務活動費の金額、定数（当選に必要となる得票数、当選ラインを含む）という点であり、これらの改革は市民からの信頼・共感を得てはじめて出来る事である。

特に現状の制度の中で、現役世代からの新人候補であれば「当選できるかもしれない」と思えなければ、議会への理解・関心があったとしても立候補は難しいと考えるのはごく自然な感覚ではないだろうか。加えて市民活動の多様化が進む中、4年に一度選挙のある議会で公人としての活動よりも自由度の高い方面からのアプローチが可能になり、優秀な人材はそちらを選ぶ可能性も考慮しなければならない。

この要因により、【議員にならない】という選択肢が出てくる。それを払拭するためには1点目の議会が活発に活動を発信し、市民との対話の機会を作っていく事が重要である。

あくまでも「議会」が行なうのであり、「議員」が個別で行なうものは性質が異なる。純粋に議会・議員への理解・関心を高めていく活動が出来るのが議会である。「議員」が個別に行なういかなる活動も当人がどれだけ純粋な理念を持っていたとしても、被選挙人であるという立場から「選挙対策」と解される等のフィルターがかかってしまう可能性は否定できないからだ。

この点を踏まえながら、議会・議員への理解・関心を高めていくことが出来れば、すなわち、市民から信頼・共感される議会となり、2点目の条件面の改革に手をつける事ができる。この循環がなければ本当の意味での魅力創出は出来ないのではないだろうか。

この活動により立候補者がいないという『地域力の低下』を防ぐことができる。そして、【議員になれない】という状態を改善していくために、話は大きくなるが、現行の『法制度』についても地方議会から声を上げることが出来るのではないかと思う。

このような点を踏まえ議論を尽くし、大竹市議会基本条例にある自主自立の地方分権時代にふさわしい市民に身近な議会を想定していかなければならない。

活動状況の把握、将来をどのように見据え、少数精鋭の議会とするのか、小さな声を拾い上げるために多くの代表者を選ぶのか。どちらを選ぶのかによって魅力の作り方は大きく異なるし、変わってくる。その方向性を見いだすことが議会改革特別委員会の大きな使命であったと思うが、現段階では決まっていない。

今後、この議論は続けていかなければならない。今の議員16人全員が議会運営・改革に真摯に取り組む、市民からの信頼・共感を得られなければ、定数を削減したとしても無投票は避けられないのではないだろうか。

議会改革特別委員会

報告者 氏名 北地 範久

【議員定数問題に関する大竹市議会議員（16名）の意見（アンケート）要請】

先の大竹市議会議員選挙による無投票の結果、「議員定数問題」が最重要課題であることが確認され、昨年末には全議員（16名）の皆さんにアンケートに参加を頂き有難う御座いました。

そうした中、9月の最終結論に向けて、先のアンケート実施から半年の時間が流れており、もう一度全議員（16名）のアンケート実施を下記の項目に沿って行ってはどの提案が出され、委員会で承認されました。

そのような状況の中、この度のアンケート実施においては、時間の関係から設問内容は、議会報告会と同様な、皆さんの意思表示が、即、分かる方法で行い、そして、今回は記名で行われることが決定されましたので宜しく願います。

特に員外議員の皆さんには、お手数ですが宜しく願います。

(自分の選択する番号に○印をつける () 内には議員定数の記入)

1、増やすべき ()

上記を選択した理由をお書き下さい。

2、現状維持 (16名)

「議員のなり手不足解消」ということから議論が始まったが、定数を削減することは、

- ・ 現役の議員にとっては、有利に働くが、新人の立候補にとってはハードルが上がることとなり、なり手不足の解消にはつながらない。
- ・ 定数が少ないほど、無投票の確率が高いという統計も総務省から出ている。また、大竹市議会の過去の選挙においても、定数が少なくなるほど立候補数も減っている傾向にある。
- ・ 定数を削減しても必ずしも無投票にならないことは確約できない。次回選挙において多数の候補者が出た場合、削減の責任はどこにあるのか。単純に無投票だから即定数削減というのは短絡過ぎる。
- ・ 過去の議会の中でも定数について協議はされているが、大変厳しい財政状況の中でも、これ以上(16名)の定数削減はないとの結論に達している経緯もある。
- ・ 議会としてのチェック機能や多様な意見の把握及び市民の声の窓口の低減につながることは否めない。
- ・ 議会・委員会運営を考え、議論に必要な人員により定数は決定するべきであると思う。
- ・ 定数増員は現時点では現実的でないということから現状維持とする。

3、減らすべき ()

上記を選択した理由をお書き下さい。

自由記述欄

※提出期限 令和4年7月20日(水)までにメール回答

議会改革特別委員会

報告者 氏名 西村 一啓

【議員定数問題に関する大竹市議会議員（16名）の意見（アンケート）要請】

先の大竹市議会議員選挙による無投票の結果、「議員定数問題」が最重要課題であることが確認され、昨年末には全議員（16名）の皆さんにアンケートに参加を頂き有難う御座いました。

そうした中、9月の最終結論に向けて、先のアンケート実施から半年の時間が流れており、もう一度全議員（16名）のアンケート実施を下記の項目に沿って行ってはとの提案が出され、委員会で承認されました。

そのような状況の中、この度のアンケート実施においては、時間の関係から設問内容は、議会報告会と同様な、皆さんの意思表示が、即、分かる方法で行い、そして、今回は記名で行われることが決定されましたので宜しくお願いします。

特に員外議員の皆さんには、お手数ですが宜しくお願いします。

(自分の選択する番号に○印をつける () 内には議員定数の記入)

1、増やすべき ()

上記を選択した理由をお書き下さい。

2、現状維持 (○)

上記を選択した理由をお書き下さい。

従来から議員定数については、議会で審議して決めると言われてきました。前回の無投票当選については、立候補者が定数以上にいなかった結果であって議会としては問題は無いと考える。

定数問題は時期尚早と思います、むしろ議員不足問題について内容を審議する必要があると思う

議員

3、減らすべき ()

上記を選択した理由をお書き下さい。

自由記述欄

議員に立候補して欲しい人材育成を地域で考えるべきだと思います。

議員のなり手不足は地域に必要な人材を自治会や地域住民で掘り起こし地域ぐるみで支援する、従来型の選挙戦を展開する事がむしろ重要で、出やすい雰囲気作りは個人の力では限界があります

新たに選挙活動について、地域代表として人材を決める事が大切ですが、生活議員として見られる議員は市民から支持が得られないと思います。議員資質の向上は議員自らが考えるべきだと思います

※提出期限 令和4年7月20日（水）までにメール回答

議会改革特別委員会

報告者 氏名 和田 芳弘

【議員定数問題に関する大竹市議会議員（16名）の意見（アンケート）要請】

先の大竹市議会議員選挙による無投票の結果、「議員定数問題」が最重要課題であることが確認され、昨年末には全議員（16名）の皆さんにアンケートに参加を頂き有難う御座いました。

そうした中、9月の最終結論に向けて、先のアンケート実施から半年の時間が流れており、もう一度全議員（16名）のアンケート実施を下記の項目に沿って行ってはとの提案が出され、委員会で承認されました。

そのような状況の中、この度のアンケート実施においては、時間の関係から設問内容は、議会報告会と同様な、皆さんの意思表示が、即、分かる方法で行い、そして、今回は記名で行われることが決定されましたので宜しくお願いします。

特に員外議員の皆さんには、お手数ですが宜しくお願いします。

（自分の選択する番号に○印をつける （ ）内には議員定数の記入）

1、増やすべき（ ）

上記を選択した理由をお書き下さい。

②、現状維持（16名）

上記を選択した理由をお書き下さい。

新人議員を増やすために、今回は現状維持でよいと思う。

3、減らすべき（ ）

上記を選択した理由をお書き下さい。

自由記述欄

※提出期限 令和4年7月20日（水）までにメール回答

議会改革特別委員会

報告者 氏名 網谷芳孝

【議員定数問題に関する大竹市議会議員（16名）の意見（アンケート）要請】

先の大竹市議会議員選挙による無投票の結果、「議員定数問題」が最重要課題であることが確認され、昨年末には全議員（16名）の皆さんにアンケートに参加を頂き有難う御座いました。

そうした中、9月の最終結論に向けて、先のアンケート実施から半年の時間が流れており、もう一度全議員（16名）のアンケート実施を下記の項目に沿って行ってはとの提案が出され、委員会で承認されました。

そのような状況の中、この度のアンケート実施においては、時間の関係から設問内容は、議会報告会と同様な、皆さんの意思表示が、即、分かる方法で行い、そして、今回は記名で行われることが決定されましたので宜しくお願いします。

特に員外議員の皆さんには、お手数ですが宜しくお願いします。

（自分の選択する番号に○印をつける （ ）内には議員定数の記入）

1、増やすべき（ ）

上記を選択した理由をお書き下さい。

②、現状維持（16名）

上記を選択した理由をお書き下さい。

- ・先の選挙で無投票の結果を考慮しても、議員数は各自治体の議会の判断に委ねられており、本市の議員数も同規模の自治体と比較しても多くの差はない。この先本市の発展を考える上では、少なくとも次回の選挙の議員定数は現状維持が妥当である。

3、減らすべき（ ）

上記を選択した理由をお書き下さい。

自由記述欄

※提出期限 令和4年7月20日（水）までにメール回答

議会改革特別委員会

報告者 氏名 児玉 朋也

【議員定数問題に関する大竹市議会議員（16名）の意見（アンケート）要請】

先の大竹市議会議員選挙による無投票の結果、「議員定数問題」が最重要課題であることが確認され、昨年末には全議員（16名）の皆さんにアンケートに参加を頂き有難う御座いました。

そうした中、9月の最終結論に向けて、先のアンケート実施から半年の時間が流れており、もう一度全議員（16名）のアンケート実施を下記の項目に沿って行ってはとの提案が出され、委員会で承認されました。

そのような状況の中、この度のアンケート実施においては、時間の関係から設問内容は、議会報告会と同様な、皆さんの意思表示が、即、分かる方法で行い、そして、今回は記名で行われることが決定されましたので宜しくお願いします。

特に員外議員の皆さんには、お手数ですが宜しくお願いします。

（自分の選択する番号に○印をつける （ ）内には議員定数の記入）

1、増やすべき（ ）

上記を選択した理由をお書き下さい。

2、現状維持（16名）

上記を選択した理由をお書き下さい。

3、減らすべき（14名）

議員のなりて不足の現状において、連続無投票での当選は避ける対策を講ずるべき。
市民に選べる環境作りをし、投票で当選をした付託を得られた人材のみを議会に送り出すことが重要と考える。少数であっても、品位と質が保たれている品格ある議会を目指すべきである。

自由記述欄

※提出期限 令和4年7月20日（水）までにメール回答

議会改革特別委員会

報告者 氏名 山崎年一

【議員定数問題に関する大竹市議会議員（16名）の意見（アンケート）要請】

先の大竹市議会議員選挙による無投票の結果、「議員定数問題」が最重要課題であることが確認され、昨年末には全議員（16名）の皆さんにアンケートに参加を頂き有難う御座いました。

そうした中、9月の最終結論に向けて、先のアンケート実施から半年の時間が流れており、もう一度全議員（16名）のアンケート実施を下記の項目に沿って行ってはとの提案が出され、委員会で承認されました。

そのような状況の中、この度のアンケート実施においては、時間の関係から設問内容は、議会報告会と同様な、皆さんの意思表示が、即、分かる方法で行い、そして、今回は記名で行われることが決定されましたので宜しくお願いします。

特に員外議員の皆さんには、お手数ですが宜しくお願いします。

（自分の選択する番号に○印をつける （ ） 内には議員定数の記入）

1、増やすべき（ ）

上記を選択した理由をお書き下さい。

2、現状維持（16名）

上記を選択した理由をお書き下さい。

○3、減らすべき（14名）

上記を選択した理由をお書き下さい。

大竹市議会は、平成15年実施の市議選挙において議員定数20名から18名に、19年には16名と人口減少に伴い削減してきました。5月1日現在の人口は、26,266人で議員一人当たりの市民人口は1,641人となります。大竹市議会では「議員一人当たりの人口を2,000人」とした経緯もあります。広島県内自治体で人口規模が類似している竹原市は平成22年から14名としています。

目田記丞欄

大竹市民は、平成19年2月に「議員定数削減」陳情を提出され、26年秋には4,508名の「議員定数削減陳情」も出されています。長年に渡り市民の要望は高いものと受け止めています。コロナ過による財政の逼迫や物価の高騰など市民生活が脅かされています。議会も改革に向けた取組が必要と考えます。

※提出期限 令和4年7月20日（水）までにメール回答

議会改革特別委員会

報告者 氏名 **日域 究**

【議員定数問題に関する大竹市議会議員（16名）の意見（アンケート）要請】

先の大竹市議会議員選挙による無投票の結果、「議員定数問題」が最重要課題であることが確認され、昨年末には全議員（16名）の皆さんにアンケートに参加を頂き有難う御座いました。

そうした中、9月の最終結論に向けて、先のアンケート実施から半年の時間が流れており、もう一度全議員（16名）のアンケート実施を下記の項目に沿って行ってはとの提案が出され、委員会で承認されました。

そのような状況の中、この度のアンケート実施においては、時間の関係から設問内容は、議会報告会と同様な、皆さんの意思表示が、即、分かる方法で行い、そして、今回は記名で行われることが決定されましたので宜しくお願いします。

特に員外議員の皆さんには、お手数ですが宜しくお願いします。

（自分の選択する番号に○印をつける （ ） 内には議員定数の記入）

1、増やすべき（ ）

上記を選択した理由をお書き下さい。

2、現状維持（16名）

上記を選択した理由をお書き下さい。

3、減らすべき（**8名**）

上記を選択した理由をお書き下さい。

- ・ 一般論として人口当たりの議員数が少ないほど、議員の質は高い。
- ・ 議員数を半減すれば、議員1人の重みが増し、その責任も高まる。
- ・ 議員数を半減すれば、当然無投票にもなりにくく、議会経費も減る。

自由記述欄

議員数を決める絶対的な理論はどこにも存在しません。ゆえに何人でもOKなのですが、折角なので、私が昔から持っている「少数精鋭論」を書かせて頂きました。仮に議員が30人もいたら、先の中国新聞の議員アンケートにあった様に、ボスがいなければ議会の統治が出来ないかも。

※提出期限 令和4年7月20日（水）までにメール回答

議会改革特別委員会

報告者 氏名 細川雅子

【議員定数問題に関する大竹市議会議員（16名）の意見（アンケート）要請】

先の大竹市議会議員選挙による無投票の結果、「議員定数問題」が最重要課題であることが確認され、昨年末には全議員（16名）の皆さんにアンケートに参加を頂き有難う御座いました。

そうした中、9月の最終結論に向けて、先のアンケート実施から半年の時間が流れており、もう一度全議員（16名）のアンケート実施を下記の項目に沿って行ってはとの提案が出され、委員会で承認されました。

そのような状況の中、この度のアンケート実施においては、時間の関係から設問内容は、議会報告会と同様な、皆さんの意思表示が、即、分かる方法で行い、そして、今回は記名で行われることが決定されましたので宜しくお願いします。

特に員外議員の皆さんには、お手数ですが宜しくお願いします。

（自分の選択する番号に○印をつける （ ） 内には議員定数の記入）

1、増やすべき（ ）

2、現状維持（16名）

- ① 委員会での協議内容からは、定数増減について現状維持を否定する合理的な理由は見付けられなかった。
- ② 議会報告会でのアンケート結果でも、現状維持が一番多い。

以上2点に加えて、定数を増、または減するのであれば、定数の根拠並びに議会のあり方についてもっと議論し、課題を見つけ、課題解決にむけ同時並行で実施すべきだと思う。

これらの作業無しに定数を増減すると、大竹市議会基本条例にある、議会の活動原則や議会のあり方からずれてくるのではないかと危惧する。よって、現状維持とする。

3、減らすべき（ ）

自由記述欄

大竹市議会基本条例の前文に、「市民に対して二元代表制の実効性を高め、・・・最良の意思決定を行うことにより・・・地方自治の本旨の実現を使命として活動する」とある。ここに書かれている事を実行するためには、定数や運営体制などについて時代の変遷と共に変わる「市議会の役割」と向き合って、変化しなくてはならない。

上記の理由で、議員定数の議論は「無投票を避けるため」にするのではなく、「時代に求められる議会の姿を実現するための最適な定数を考える」ことから議論されるべきだと考える。

3年前の選挙では、議員を志す市民が定数を上回らなかった結果無投票となった。この事実は一言で「残念な結果だった」と言うには言葉が不足していると考えるが、「無投票だから定数削減だ」との主張は安直にすぎるとは思えない。無投票は市民の選ぶ権利を奪ってしまう一面もあるが、無投票を避けることが、他のすべてに優先するとは思えない。むしろ、定数を減らした結果、本来あるべき議会のあり方から遠のいてしまう可能性についてこそ議論するべきだ。

○議会の役割とはなにか？自治法の改正や地方制度調査会の学びから、時代と共に変わっていることはあるか。

○市民が議会に期待することはなにか？議会報告会で意見交換のテーマにもしたが、市民との対話など実行しながら、直接意見をいただく機会がもっと必要ではないか。

○市民は議会に無関心なのか。その理由はどこにあるか。関心を持っていただくために大竹市議会が何をしたか、また、その検証。

○総務省の調査によると人口の少ない市町ほど無投票になる傾向にあるが、その理由。大竹市は例外なのか。

○全国的に指摘されている、議員のなりて不足の解消のために、他の議会はどのような試みをしているか。成果はあるか。

以上の事柄について市議会の中で共通認識をつくり、その後、定数の根拠や増減の必要性に議論を進めるべきだ。

議員定数についての議論はまだ中身に入っていない。今の時点では「現状維持」の他にない。

議会改革特別委員会

報告者 氏名 寺岡 公章

【議員定数問題に関する大竹市議会議員（16名）の意見（アンケート）要請】

先の大竹市議会議員選挙による無投票の結果、「議員定数問題」が最重要課題であることが確認され、昨年末には全議員（16名）の皆さんにアンケートに参加を頂き有難う御座いました。

そうした中、9月の最終結論に向けて、先のアンケート実施から半年の時間が流れており、もう一度全議員（16名）のアンケート実施を下記の項目に沿って行ってはとの提案が出され、委員会で承認されました。

そのような状況の中、この度のアンケート実施においては、時間の関係から設問内容は、議会報告会と同様な、皆さんの意思表示が、即、分かる方法で行い、そして、今回は記名で行われることが決定されましたので宜しくお願いします。

特に員外議員の皆さんには、お手数ですが宜しくお願いします。

（自分の選択する番号に○印をつける （ ）内には議員定数の記入）

1、増やすべき（——）

上記を選択した理由をお書き下さい。

②、現状維持（16名）

上記を選択した理由をお書き下さい。

議論を重ねた結果が、現在の定数が大竹市議会にふさわしくなければ変更することは当然という立場であるが、今のところ定数を確定する根拠に至っていないと考えている。

地方議会の本質的な面での議論を行い、将来の大竹市議会の在り方を模索することで、おのずと適切な定数が導き出されると同時に、今後生じる諸課題に対しての基本的考え方を構築することができる機会である。詳細は自由記述別紙にて記述。

3、減らすべき（——）

上記を選択した理由をお書き下さい。

自由記述欄

別紙

※提出期限 令和4年7月20日（水）までにメール回答

経緯

無投票であった令和元年一般選挙を省みて、本会議においてなり手不測解消に向けて特別委員会が設置された。

前半の2年間では、議会の審査能力の向上や討議機会の仕組みづくりなどで、自治体での議会の権能を伸張させることに注力し、併せて、発信力向上を手掛けることで市民に議会の存在感を示し、本来の目的であるなり手不足の解消を目指した。

これには、議員が仕事をしていない、議会が何をしているかわからないなど言われるという大勢意見が背景にあった。市政や選挙への関心や理解を促す取り組みがなければ、立候補はもちろん投票行為にもつながらない。今まで以上に質の高い審議機関を目指す仕組みを2年間で整え、そこで生まれた情報をより幅広く発信できる手段を拡張したことは実に合理的であったと考える。これらは、ひいては議会が提供する主権者学習の機会ともなり得る。

現在の広報広聴特別委員会における新たな SNS やモニター制度導入の模索は、前述からつながる大竹市議会の流れであり大いに注目しているところである。

進捗を見て

3年目の活動からは議員定数について協議がされてきた。定数について自らが考えることそのものは大いに有意義で価値のある時間であると考えますが、議会の在り方や将来的な道筋など本質的議論につながらなければ、無投票の解消といった目先の目標をどう達成するかという単なるワークにしかならない。典型的な目的と目標のすり替わりの様相を呈する。

これは、委員会設置当初、先んじて議会の諸能力向上を目指すことを優先し、定数が委員会の主たる研究テーマにならなかった理由の一つである。

定数議論

定数について議論するためには、数値の方向性を出す前に議会基本条例を根底に持った議論の土台と前提を創っておかなければならない。

●地方議会の役割を認識した上で●大竹市ではどのような議会を創っていくか共通の方向性を打ち出し、その●構成員たる議員の役割について建設的に理論を積み重ね、役割を全うするための、●具体的な役割や仕事、作業の確認と共有を行うことで大竹市議会にとっての理想的な●適正人数を仮に設定する。それを元に●大竹市議会における定数変更や現状維持のメリットとデメリットを考察し、予算や市民の意見など外部要因を加味して●理想と現実のギャップを埋めていく作業が必要であると考えます。

例えば、議員に仕事などない、執行部の出す議案への可否だけという意見も聞かれたが、特別委員会の取り組みや議会だよりの編集、議会報告会の企画運営ほか、代表者会議をはじめとした事務局を含む議会内の調整、各調査研究考察提案なども、責任を果たさなければならない議会議員の役割であるとイチ議員として捉えている。従来、議会基本条例と関連づけてこれらの役割につながっているはずだが、今のところそういった意見は特別委員会での共有ひいてはコンセンサスにつながっていない。

以上のような工程を踏まえ、●定数変更・維持による投票率・投票数の論理的な推察に至れば、議会判断に至る十分な根拠として市民に説明でき得るのではないかと。また、これら一連を通して、基本条例の理解という副産物が得られることも大いに期待したい。

なお、他市町の数字を参考資料に上げる場合、人口規模のみが着目されやすく、地勢、地政、文化、産業構造、財政規模などの要素が軽んじられているよう見受けられる。幅広く、歴史も紐解きながら大竹市議会としての在り方を探っていただきたい。

無投票の意味

なり手不足の解消もしくは議長が認める事項として、たびたび特別委員会の研究テーマとされているが、無投票解消と定数変更となり手不足について、目的と目標と手段の位置づけが議論の途中でたびたび入れ替わり混乱している。

そもそも無投票になぜ非があるのか、漠然と委員の個人的常識として述べる場面はあったが、委員会としての常識に至っておらず話がかみ合っていないため、委員会内で共通した問題意識となり得ていない。個人も常識の根拠を示されることなく、当人の常識と違えば非常識だと揶揄して議論停止することの繰り返しに意味を見出しにくい。

せめて●**無投票がもたらす弊害のリストアップと共有**程度は最低限しておく必要がある。これがないため、●**責任の所在はどこにあるのかを検証**して、場合によっては選挙管理委員会など議会の外に連携協力を働きかける旨の意見や、●**出馬をしやすくするための具体策の検討**の提案が、個別事項の評論で終わってしまい、議論が発展しない原因になってしまっていたのではないだろうか。

その他にも委員会内で、●**なぜ無投票になったかの本質的な議論**に入りかけた事もあったが消えていった場面が散見された。これら各委員からの意見・提案を、具体的な委員会活動に結び付けることに努めていただきたい。

例えば国民年金、国民健康保険、失業手当なし、退職金なし、原則4年に1回選挙、家族の理解、職業差別・ハラスメントなど、議員特有の現実的なネガティブ要素を明らかにせず、無責任に立候補を期待している、ブラック企業の求人と同列になってしまうのではないか。なぜならこれらは市民が立候補するための市民自身の問題だからである。平素から市民の福祉や生活を考え意見を述べている我々議員が、この件に限り市民の立場になれないのはおかしい。しっかりと机上に上げ、それに増してのやり甲斐や意義を織り交ぜたものを十分に表現できるまで、●**現職の生の声として組み立てる**必要があると考える。

回答補足説明

少なくとも、これまであげた13の●について議論のうえでの結論を望む。

回答で示した通り、本質的議論の結果で現在の定数が大竹市議会にふさわしくないとすれば、増員だろうと減員だろうと変更することは当然という考えである。逆に、現行の16がふさわしいかについても、この度の議論の過程で検証されていない。

増減・維持ともにまだまだ議論不十分と受け止めており、市民に説明どころか広聴会や公聴会を開ける状況にもなっていない。よって、根拠を持った結論にたどり着ける段階ではなく、すなわち平成19年以來の定数に依らざるを得ない状況であると考ええる。

その他自由記述

・なり手不足の解消を課題とし、議会ができることは何かを探って2年間で議会の情報発信力や審査能力の向上、討議機会の仕組みづくりを行ってきた。併せてこちらの振り返りもお願いしたい。

・また、第1回目のアンケート総括では、16枚の回答用紙の中身を紐解かずの一覧表を見ただけの感想程度を述べるに止まっているように見えた。この2回目のアンケートを回答1~3の数字集計だけで終わらせず、委員会でのより深い議論に活用していただけるようお願いしたい。

・残りの委員会委員任期中で結論が導き出せるようご尽力されると察するところである。ぜひ結論到達後でも引き続いて貪欲に地方議会・議員の役割の研究を重ね、基本条例の更なる洗練につながるよう次期にも委員会の設置を促し、中長期で大竹市議会内部での議論の蓄積を叶えていただきたい。それにより、20年30年後の後輩議員に胸を張って引き継げる議会となり得る。

参考 前回回答一部抜粋 字句整理済

・単純にパイ（被選挙権者総数）が減少傾向と捉えれば簡単だが、その前に投票率減少の背景を調査研究の方がよほど現実的で、また深刻であると考え。市民の政治離れや、議会に対する興味関心の向上を社会問題として議論すべきではないか。その背景の中にこそ議場で議決された「なり手不足」のカギが隠されているのではないか。

・いまの議論は、無投票という結果を問題としているのか、それとも議員定数という決まりを問題としているのか分からない。

・何のための議会なのか、議会基本条例をまだまだ掘り下げて共有すべき。その上で、その目的を達成するために必要な人数が定数となり得る。議論する際に、16名は単なるアンカリングに過ぎないと考えべき。必要であればアンカーを外しても良いのではないか。また、急な多人数の変化を感覚的に嫌って、「1名減らします」「1名増やします」などは根拠がなさすぎる。その結果、地方自治における議会の目的が果たせなくなるようでは本末転倒。この度無投票だから減員という意見も聞かれたが、仮に定数16のところ32名立候補があったら定数増となるのか。要するに根拠がない。このまま感覚的に物事が決まってくると市民に説明できない。

・投票率と立候補者数などの過去20年程度の推移を分析していただき、「次回の選挙は投票率を10ポイント上げる」などの目標を掲げて、議会自らの活動と合わせて、選挙管理委員会に提言していただきたい。それが20年後の立候補者数により影響を与えようとする。